

「みまもりくん」でマスターする省燃費・安全ドライビング 第44回



エコドライブにもGood!

*高度運行情報システム「みまもりくんオンラインサービス」は、環境負荷の低減に配慮したすぐれた製品・サービス(エコプロダクツ)を表彰する2005年エコプロダクツ大賞において、エコサービス部門国土交通大臣賞を受賞。2007年には、モバイルコンピューティングの普及促進団体MCPICIによる第5回MCPIC awardグランプリ(大賞)及び総務大臣賞、モバイルビジネス賞を受賞しました。さらに2009年、優れた省エネルギー性を有する民生用エネルギー利用機器・資材及びエネルギー利用システムを表彰する平成20年度省エネ大賞で経済産業大臣賞を受賞しました。



ケーススタディー 39 日本トラック株式会社

エコドライブの意識づけと定着を、みまもりくんによる“見える化”で実現

ものづくりの物流を総合的にサポート



代表取締役社長 小山 誠行氏

日本トラック株式会社は、納入代行・流通加工・流通保管を通して、ものづくり業界の物流部門を総合的にサポートする企業だ。その歴史は60年以上。小山社長は次のように語る。

「アウトソースが世の中全体の流れとなり、物流に関わる作業を一本化することで生産性を上げたいというお客様のニーズにお応えすることで、事業を拡大してきました」

現在では本社に加え、神奈川県・栃木県に合わせて6ヶ所の営業所と出張所を構えている。出張所とは、顧客の製造工場内に設けられた作業所のこと。製造業では「必要な物を、必要な時に、必要な量だけ」生産する「ジャストインタイム」と呼ばれる手法がとられることが多く、まさに同社は輸送から製造ラインと隣り合わせの場所までにおける総合的なサービスを通し、ものづくりを支えていると言えるだろう。

「みまもりくん」の省燃費指導活用はもちろん、運行管理機器に必要な使いやすさも評価して導入

同社がみまもりくんを本格的に導入したのは、2009年のこと。それまではデジタルタコグラフを使っていたということで、山本常務はみまもりくん導入の狙いについて次のように語る。

「それまでは、運行を細かく分析して指導することができていませんでした。その点みまもりくんは、出力される各種レポートを教育資料として使えるため『きめ細かい個別指導に活用できる』と判断し導入しました」

また、「日々の使いやすさ」も決め手の1つとなったと、山口総務部長は語る。「メモカードが不要で、日報代行ソフトで運転日報が自動で出力されるため、運行管理者・乗務員双方の業務負担を軽減できて便利ですね。また各営業所の燃費・アイドリング時間等は本社で



常務取締役 山本 清次氏

集約しているため、データをCSVデータで出力できる部分もポイントです。

みまもりくん導入の効果について小山社長は次のように語る。

「みまもりくんを導入したことで、運行状況の“見える化”が実現しました。これは管理者の視点だけでなく、自分の運転が客観的に評価されるという点で、乗務員本人にとっ

ても大きなメリットをもたらしました。また社内で改善ポイントを共有する事ができるため、我々が求める理想の運転を管理者、ドライバーも容易に理解できるような体制が整いました」

ハイレベルな省燃費安全運転を「体が覚えている」

みまもりくんの各種レポートを用いた運行状況の“見える化”を進めた結果、現在同社での平均燃費は、中型車で5.8km/ℓ、大型車で3.9km/ℓと、そのレベルは大変高い。

同社では、乗務員評価の一部にみまもりくん診断される100点満点の評価点を活用しているが、すべての乗務員が大変高度な運転スキルを持つようになったいま、表彰の対象となるのは1年間連続100点記録した場合がアイドリング0分の場合のみだと言う。こうした現状を踏まえ、今期からは乗務員同士の比較による評価でなく、従前と比べその乗務員自身がどのくらい燃費や点数をのばすことができたか、という指標で指導を行っていくと山口総務部長は語る。

「当社の乗務員は、すでに省燃費・安全運転の方法を体で覚えているんです。こうなると本当の“定着”と言ってよいのだと思います。我々は公道をつかって仕事をさせていただいていますから、今後とも省燃費・安全運転を徹底していきます」と山本常務は語る。



【会社概要】

会社名：日本トラック株式会社
本社所在地：神奈川県大和市柳橋5-15-1
設立年月日：1949年1月
代表取締役社長：小山 誠行
社員数：210名
保有車両台数：69台

営業所でもフル活用のみまもりくん、輸送品質も支える

続いて、車両の発地点となる藤沢営業所の方々にお話を伺った。菊地営業所長は、自社の業務において特に役立っている機能について次のように語る。

「部品が届かず、お客様の製造ラインを停めるわけには行きませんが、当社の輸送業務では特にリアルタイム、迅速な対応が求められますから、地図上で一目で車両の位置が分かるみまもりくんのGPS機能は、状況判断に大変有効ですね」

日々運行管理を行なっている村山副主任も、「突発的に依頼が入った際に、どの車両が一番早く対応できるか一目瞭然です。また、行き先が分かりづらく慣れない場所の場合、大型車両ですから無駄なUターンが思わぬロスになることもありますが、こちらで現地の状況を乗務員にガイドすることで、スムーズな運行が可能になります」と語る。

また、ハイレベルな省燃費運行が定着していることは先述したが、当社ではアイドリングゼロを目標にしており、現在ですでに月平均アイドリング時間は1分に過ぎないという。

各営業所単位で解決すべき課題は、各レベルの管理者がそれぞれ年間目標として策定。その中で、すべての管理者が“みまもりくんの活用”を盛り込んでいるということで、同社においてみまもりくんが課題解決の一助になっていることが伝わってくる。



藤沢・栃木営業所ともに、Gマーク・グリーン経営認証を取得



エコドライブ活動コンクールで、藤沢・栃木の両営業所が優良賞を受賞

運輸安全マネジメントにも先駆けて着手 みまもりくんを活用してさらなる安全性の向上を目指す

「当社は昨年、運輸安全マネジメントの実施に踏み切りました。これは基本的に、トラックであれば300台以上保有の大企業に義務付けられるレベルの取り組みですが、『安全はすべてに優先する』と掲げている以上、自分たちで自分たちのハードルを高くすることが当然と考えました。今後もみまもりくんを活用しながら、安全に注力していきたいと考えています」

と小山社長。今後もみまもりくんは同社の運行に欠かせないツールとなりそうだ。

同社のみまもりくん活用イメージ

本社

総務部業務管理課 係長 大貫 浩氏
みまもりくん導入時から、実際の運用を統括されています。

総務部業務管理課 副主任 鈴木 宏和氏
みまもりくんから出力されるCSVデータの集計ソフト連携、集約・分析を担当されています。

各営業所で日々の管理を行ない、本社でそれらのデータを集約して全社的に活用しています。

↑ 集約 ↓

ISUZU みまもりセンター

藤沢営業所

(右から) 所長 菊地秋男氏、副主任 岩元吉彦氏、配車担当 村山氏、副主任 村山宣義氏、係長 三浦康彦氏

栃木営業所

配車担当 小堀氏

同社のジャストインタイム輸送を支える車両位置お知らせサービス

日報代行ソフト
夕方5時前後に帰庫が集中するという同社の車両。日報の出力待ちがない日報代行は大変役に立っているとのこと。

メッセージお知らせサービス
乗務員が電話に出れない荷卸時等には、この機能で連絡を入れておくことでエンジン始動の際にアナウンス。連絡漏れの防止に重宝しているそうです。

メンテナンス時期お知らせサービス
オイル交換時期を記載したシールを、車両の目に付くところへ貼ると同時に、この機能を併用することで交換漏れがなくなったそうです。